

登場人物の言動の意味について友だちと交流することで 登場人物の心情を深く読み取ろう ～本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く～

<課題の見られた問題>

B③三 「本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く」

次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。 (正答率：32.0%)

条件1 【物語の一部】の□の中のどの部分についてよく分かるようになったのかを明確にして書くこと	
条件2 条件①で取り上げた部分について、どのようなことが分かったのかを【図鑑の説明】の内容に触れて書くこと	

<解答類型と反応率>

解答類型		反応率 (%)	正答
1	条件①、②を満たして解答しているもの。 (例) 図鑑の説明から、天井が煤で真っ黒になっているのは、ほやの上の口から煤が出るためであることが分かりました。	32.0	◎
2	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの。 (例) 図鑑のいろいろな説明を読むことで、巳之助がランプの肩をもって、電灯のよいことはみとめなかった理由が分かった。 * 【図鑑の説明】の内容を適切に取り上げていない。	15.2	
3	条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの。 (例) 図鑑を見て、ランプにほさが付いていることが分かった。*よく分かるようになった部分が明確になっていない。	12.6	
9	上記以外の解答	14.4	
0	無解答	25.7	

<学習指導要領における領域・内容>

B 書くこと

〔第1学年〕ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。

⇒〔第2学年〕ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。

C 読むこと

〔第1学年〕カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。

⇒〔第2学年〕オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。

<分析>

- ・解答類型2の反応率が15.2%、解答類型3の反応率が12.6%あり、異なる種類のテキスト（文学的文章と図鑑）を関連付け、問われている内容を整理したうえで、必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題があると考えられる。
- ・生徒が考えを交流する際、文章のどの部分に着目し、どのような事柄を基にして内容を理解したり想像を広げたりしたのか等、根拠を明確にして説明し合うように指導することも大切である。根拠を明確にした話合いは、国語科に限らず他教科・領域においても取り組むことが大切である。
- ・文学的文章を読む際に、必要に応じて他の様々な資料を活用し、情報を補うよう指導することも大切である。

<授業改善のポイント>

B③三の結果を分析すると、異なる種類のテキスト（文学的文章と図鑑）を関連付け、問われている内容を整理したうえで、必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がみられました。本授業例は、2年生の生徒が、文学的文章と異なる種類のテキストを関連付け、時代背景を知ることで、登場人物の言動の意味がよりよく分かったところについて、根拠を明確にして考えを交流し合い、人柄や心情をとらえることをねらいとした授業です。

【第2学年「字のないはがき」向田 邦子】

本時のねらい

登場人物の言葉や行動がどんな意味を持っているか考え、人柄や心情をとらえることができる。

【前時の学習】

文学的文章と異なる種類のテキストを関連付け、時代背景を知ること、登場人物の言動の意味がよりよく分かったところについて、根拠を明確にして自分の考えを書く。

次時に友だちと自分の考えを交流し、登場人物の心情を深くとらえることを確認する。

Point

生徒に次の条件を伝え、条件を満たしてまとめるよう指示する。

- 条件1 本文の中で自分が選んだ部分を明記する。
- 条件2 何の資料からどのようなことが分かったのか、根拠を明確にする。
- 条件3 調べたことで登場人物の心情がどのように分かったのかまとめる。

【本時の学習】

私は、本文の「私と弟は家庭菜園のかぼちゃを全部収穫した。小さいのに手をつけると叱る父も、この日は何も言わなかった」を選びました。

資料に、「贅沢は敵」とか、「食糧不足を補うため、学校の校庭が畑として使われるようになりました」とあるように、本当に食べ物がない時代だったということが分かりました。庭の小さなかぼちゃまでが貴重なもので、それを全部収穫したのは、末の妹を思ってこそその行動だったと思います。父が何も言わなかったのは、父も妹の帰りを心から待ちわび、出迎えてやりたいと思っていたからだと考えました。

戦争中の人々の暮らし

そのころの日本 広島と戦争 戦争中の人々の暮らし 原子爆弾の開発 もどる

「ほしがりません勝つまでは」

戦争が長くなるにつれ、人々の生活はだんだん苦しくなっていました。食料や衣服、燃料など生活に欠かせない物も自由に手に入れることができなくなり、みんな、政府から配られるキップを持って配給を受けるようになりました。

それでも、人々は「ほしがりません勝つまでは」とか「ぜいたくは敵だ」といったスローガンで自分たちをばけましなから不自由な生活にたえていました。

※戦争中、子ども達が校庭で畑作りをする様子が分かる写真

校庭の畑作り作業

食料不足を補うため、学校の校庭までが畑として使われるようになりました。

出典：広島平和記念資料館 キッズ平和ステーション サダコと原爆 http://www.pcf.city.hiroshima.jp/kids/KPSH/J/hiroshima/sadako/subcontents/03hitokurashi_1.html

※学童疎開の様子が分かる写真

空襲などの危険を避けるため、安全と思われる農山村に集団で疎開しました。子ども達は親元から遠く離されました。集団疎開先では、空腹に悩まされ、体力は低下してきました。また、衛生状態が悪く、のみやしらみに悩まされました。親たちは、遠く離れている子どものことを大変心配しました。

ぼくは、本文の「小学校1年の末の妹が甲府に学童疎開をすることになった」を選びました。

資料の記述から、疎開した子ども達は、食糧事情や衛生状態が悪く、つらい日々を過ごしたことが分かりました。幼い末の妹を気づかって、父は妹に葉書を持たせたのだと考えました。「ハッ」が書かれた葉書を見たとき、やがて葉書が来なくなったとき、父の心配りは大きくなっていったと考えました。

登場人物の言動の意味を考えるには、時代背景を知ることが有効ですね。

文学的文章を読む際に、必要に応じて他の様々な資料を活用し、情報を補うような活動を設定することも大切です。生徒がそれぞれの情報や考えを交流することで、学びに広がりやが生まれますね。

<学校で取り組む授業改善> ~他学年や他教科でも大切にしたい内容~

Point

生徒が主体的に様々なテキストから情報を収集し、それを互いに共有しながら学びを深め広げる活動も取り入れていきましょう。また、根拠を明確にした話し合いは、国語科に限らず他教科・領域においても取り組むことが大切です。

(例) **理科**
・実験計画の段階から説明する経験をさせる。
・実験結果をもとに、根拠を示して相手を納得させる機会の確保、経験を積んでいく。

(例) **英語**
・読み取ったことをもとに自分の考えを英語で伝える。
・理由を示して考えを英語で伝える。

(例) **社会**
・示された情報ではなく、自分から情報を探していく態度を育成する。
・資料や地図等の情報を読み取って、関連づけて説明する機会を増やす。